

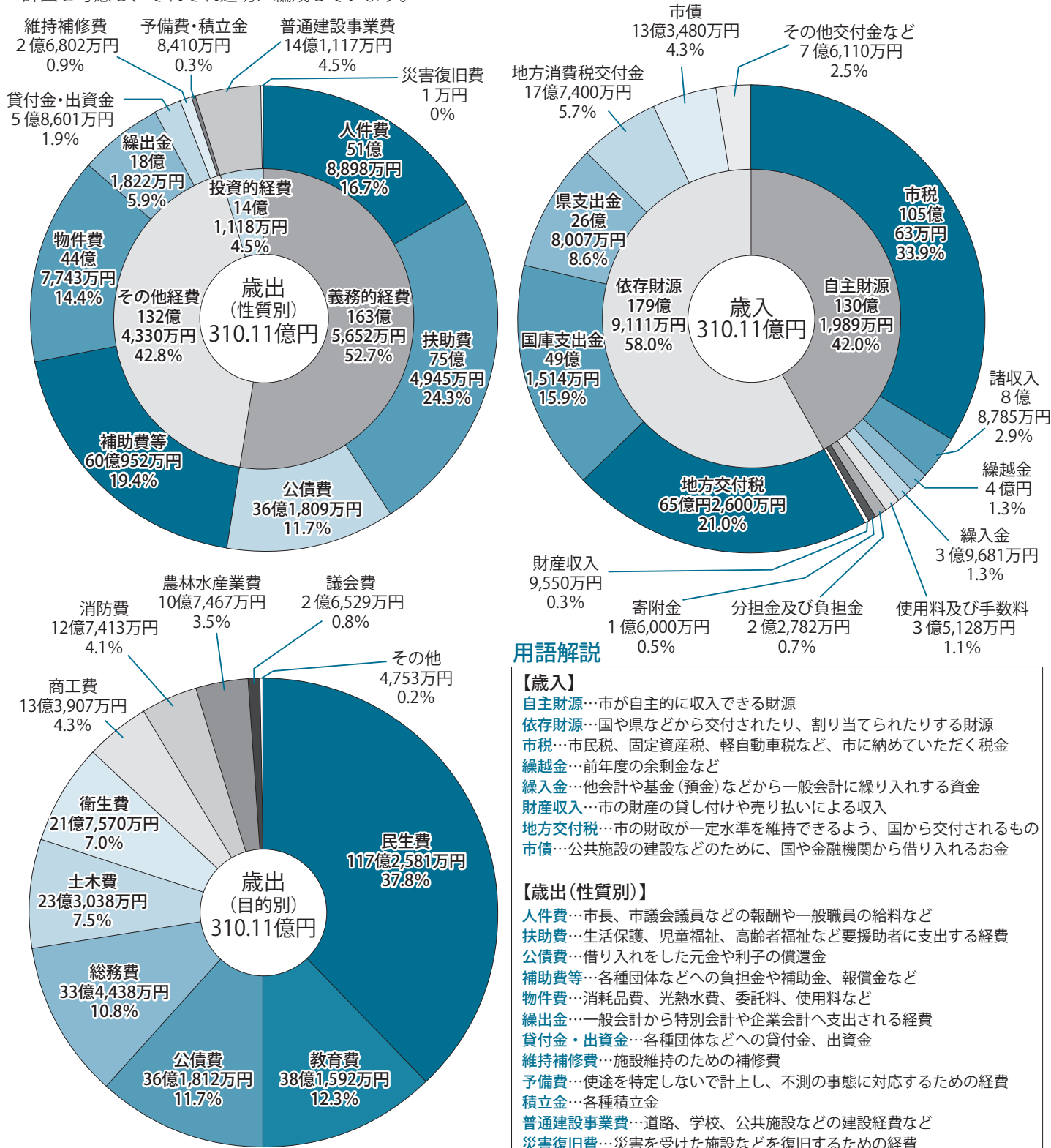
『大田原安心予算』を編成！ 令和4年度当初予算の概要

一般会計当初予算額は「310億1,100万円」

令和4年度予算は、前年度に引き続き、全ての事業について必要性や徹底した費用対効果を厳しく見極め、経費の削減を図る一方で、生活に直結するサービス経費は維持、拡大を図りました。新型コロナウイルス感染症への対策と地域経済や住民生活の支援策は、国の財源を活用し必要な各種対策を講じることで、市民の皆さまの不安を解消し、コロナ禍においても、安心して暮らしていけることを目的とした『大田原安心予算』として編成しました。

一般会計の当初予算額は、新型コロナウイルス感染症関連事業費や子ども医療費助成の現物給付の対象拡大に要する経費、「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」における競技会の開催経費などにより、前年度と比較して、9億7,800万円、3.3%増の310億1,100万円となりました。

歳入の大部分を占める市税は、新型コロナウイルス感染症の社会経済活動に与える影響が令和3年度当初予算編成時の予想よりも小さく済んでいることなどを勘案して、前年度予算と比較して5.2%の増を見込んでいます。使用料及び手数料は新型コロナウイルス感染症の影響により5.5%の減としました。その他国庫支出金や交付税などの歳入については、国の地方財政計画を考慮し、それぞれ適切に編成しています。



用語解説

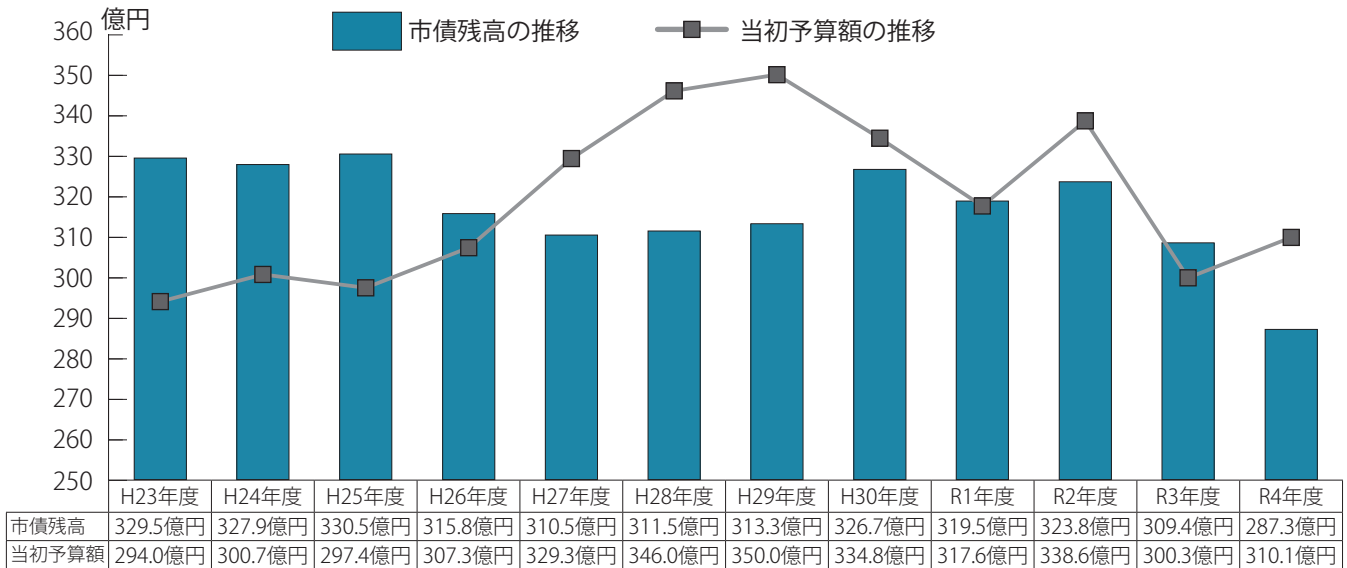
【歳入】

- 自主財源**…市が自主的に収入できる財源
- 依存財源**…国や県などから交付されたり、割り当てられたりする財源
- 市税**…市民税、固定資産税、軽自動車税など、市に納めていただく税金
- 繰越金**…前年度の余剰金など
- 繰入金**…他会計や基金(預金)などから一般会計に繰り入れする資金
- 財産収入**…市の財産の貸し付けや売り払いによる収入
- 地方交付税**…市の財政が一定水準を維持できるよう、国から交付されるもの
- 市債**…公共施設の建設などのために、国や金融機関から借り入れるお金

【歳出(性質別)】

- 人件費**…市長、市議会議員などの報酬や一般職員の給料など
- 扶助費**…生活保護、児童福祉、高齢者福祉など要援助者に支出する経費
- 公債費**…借り入れをした元金や利子の償還金
- 補助費等**…各種団体などへの負担金や補助金、報償金など
- 物件費**…消耗品費、光熱水費、委託料、使用料など
- 繰出金**…一般会計から特別会計や企業会計へ支出される経費
- 貸付金・出資金**…各種団体などへの貸付金、出資金
- 維持補修費**…施設維持のための補修費
- 予備費**…用途を特定しないで計上し、不測の事態に対応するための経費
- 積立金**…各種積立金
- 普通建設事業費**…道路、学校、公共施設などの建設経費など
- 災害復旧費**…災害を受けた施設などを復旧するための経費

■一般会計の当初予算額と市債残高の推移



※市債残高は、令和2年度までは決算額、令和3年度は決算見込額、令和4年度は当初予算額です。

■特別会計・企業会計

特別会計は、前年度と比較して7,195万円の増額となりました。増額の主な要因として、介護保険特別会計において生活支援体制整備事業における各地区協議体事業の活性化が見込まれることや須賀川財産区特別会計において立木の売り払いを行うことから予算の大幅な増額があったことなどがあげられます。

企業会計は、前年度と比較して2億7,800万円の減額となりました。減額の主な要因は、水道事業会計においては上石上配水池の建設完了に伴う建設改良費の減額、下水道事業会計においては資本的支出の浄化槽建設改良費の減額によるものです。

※下水道事業特別会計と農業集落排水事業特別会計は、令和2年度から下水道事業会計(企業会計)となりました。

特別会計	当初予算額	前年度比
国民健康保険事業費	78億5,000万円	3.1%減
介護保険	70億9,200万円	3.3%増
子育て支援券	1,940万円	5.4%減
後期高齢者医療	8億1,630万円	10.6%増
須賀川財産区	2,500万円	2531.6%増

企業会計	当初予算額	前年度比
水道事業	25億7,900万円	6.0%減
下水道事業	30億1,800万円	3.6%減

■地方消費税交付金が充てられる経費の状況

消費税および地方消費税の税率が5%から引き上げられた分(2014年4月に8%へ、2019年10月に10%へ)の税収は、地方公共団体へ分配され、社会保障4経費(年金、医療、介護、子育て)やその他の社会保障施策に要する経費に充てられます。

本市の令和4年度の交付見込額は9億6,764万円で、充当予定は右表のとおりです。

社会福祉費(障害者福祉、高齢者福祉、児童福祉、母子福祉、生活保護など)	4億1,248万円
社会保険費(国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療など)	4億5,148万円
保健衛生費(母子保健、妊産婦健康診査、地域医療、予防接種、健康診査など)	1億368万円

よいち家・1か月の家計簿 ¥

家庭の家計と市の財政では、規模もお金の使い道も違うため、単純に比較はできませんが、令和4年度一般会計当初予算(310億1,100万円)を、県内で平均的とされる年収460万円(1か月あたり38万円)の世帯に例えてみました。

収入面では、市税や国税、県税として集められた税の地方への配分は増額となっているため「親からの援助(地方交付税・国県支出金など)」が増加しています。新型コロナウイルス感染症の影響によりパート収入(使用料など)は減額しています。また、前年度に引き続き財政調整基金からの繰入れは行いませんでしたが、「貯金の取り崩し(基金繰入など)」が増加しています。支出面で「家族の医療費(扶助費)」が増加し、「家・車などの修理・買い替え(普通建設事業費など)」が増加した一方、広域クリーンセンター大田原、共同一般廃棄物最終処分場整備事業負担金の減額により「知人への援助など(補助費など)」が大幅に減少しています。

()内は前年度比

入ってくるお金	合計	38万円	使うお金	合計	38万円
給料(市税)	12万9千円(+2千円)		食費(人件費)	6万4千円	(△2千円)
パート収入(使用料など)	7千円(△1千円)		家族の医療費(扶助費)	9万3千円(+2万8千円)	
親からの仕送り (地方交付税・補助金など)	20万4千円(+5千円)		ローンの返済(公債費)	4万4千円	(△2千円)
貯金の取り崩し(繰入金)	5千円(+1千円)		光熱水費などの雑費(物件費など)	5万5千円	(△1万円)
借金(市債)	1万6千円(△8千円)		知人への援助費など(補助費など)	7万4千円	(△2万円)
その他	1万9千円(+1千円)		家・車などの修理・買い替え (普通建設事業費など)	2万円	(+5千円)
			子どもたちへの仕送り(繰出金)	2万2千円	(±0千円)
			貯金や知人への貸付など (貸付金・積立金など)	8千円	(+1千円)